

にのきょうきゅうりょう こふん 初めて発見された西ノ京丘陵の古墳

六条野々宮古墳 奈良市六条1丁目

近鉄西ノ京駅から少し西へ歩くと、西ノ京丘陵の支脈の緩斜面がはじまります。その斜面の途中にある住宅地の一画で、今日まで知られていなかった古墳が発見されました。この古墳を所在地の地名から六条野々宮古墳と呼ぶことにします。

調査地付近は、近年宅地化が急速に進み、造成工事などにより丘陵本来の地形を留めていない所が随所に見られます。六条野々宮古墳のある所も例外ではなく、古墳南辺部は大きく削平され宅地化しており、東側や西側には既に民家が建っています。幸い古墳の2/3程は宅地裏山の雑木林として残っていたので、今回の発見につながりました。

調査の概要 古墳が所在する場所は、平城京の条坊復元では、右京六条三坊六坪の坪内に位置します。このため発掘調査は、丘陵上に位置する六坪内の利用状況を把握することを当初の目的としていましたが、古墳が遺存していることがわかったため、形状・規模等の古墳の遺存状態を把握することも調査課題に加え、2度（平成14年度平城京第489次調査・同15年度同第492次調査）にわたって実施しました。

残念ながら、既に墳丘の築成土や埋葬施設は削平され残っていませんでしたが、円筒埴輪の据付け穴2基と周溝の一部を発見しました。

第489次調査で検出した円筒埴輪の据付け穴は、平面が円形で径0.4m、深さ0.2mを測るもの（A）と平面が楕円形で長径0.4m、短径0.3m、深さ0.2mのもの（B）がありました。A・Bいずれも穴内には円筒埴輪A・Bの基底部分が残っていました。

円筒埴輪Aの大きさは、直径約26cm、残存高17cm程で、最下段の突帯が一条残っていました。器表面には、横方向のハケメ痕跡や焼成時についた黒斑がみられます。

円筒埴輪Bは、長径23cm、短径20cmで、やや楕円形ぎみになっており、A同様、最下段の突帯が一条だけ残存していました。器表面は摩耗してい



調査地位置図

るため、ハケメなどの調整痕は不明ですが、黒斑はみとめられました。

これらの円筒埴輪は、形態的な特徴や調整手法等の型式の特徴からみて、5世紀前半頃に作製されたものと考えられます。

このほかに、径0.3m、深さ0.1m程の小穴数基と奈良時代の柱穴及び土坑を1基検出しています。

第492次調査では、発掘区の大半が現代の攪乱により遺構が残っていませんでしたが、北端で南北幅0.9m以上、東西の長さ0.6m以上の溝を検出することができました。深さは、検出面から0.4m程あります。溝の底部には、自然堆積土と見られる褐色系の砂や暗褐色系の土が堆積しており、同層からは円筒埴輪片の他、奈良時代の須恵器の破片なども数点出土しています。

さらに、この土層の直上の堆積土には、室町時代の土器片が含まれており、堆積状態からも室町時代以降になって人為的に埋められていることがわかりました。土層の状態からみて、古墳の周溝は、少なくとも奈良時代までは壊されずに存在していたことが理解できました。

ただ、墳丘の築成土が削平された後に、奈良時代の柱穴や土坑が掘られていることから、墳丘部分は奈良時代以前に壊されていたことがわかります。

古墳の形と規模 墳丘の築成土や古墳の南辺部が削平されて残存していないため、推測することはかなり難しいのですが、埴輪据付け穴と周溝の位置関係から推測すると以下の様に考えられます。

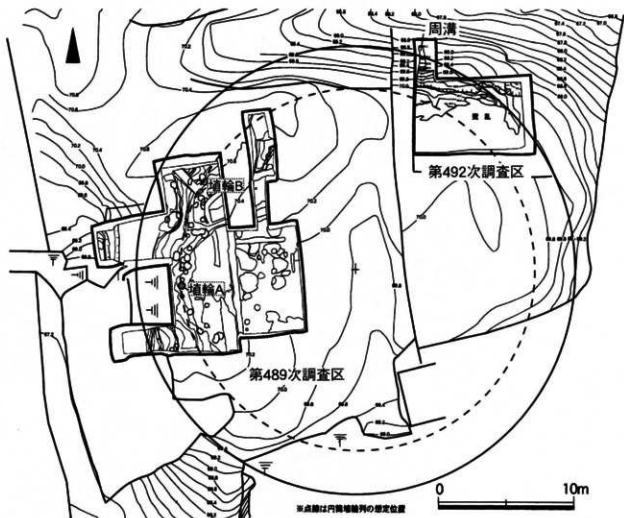
①周溝は、その一部を北側でしか確認していませんが、地形からは少なくとも東側及び西側にかけてはめぐっていた可能性が高い。

②第489次調査地では、埴輪据付け穴以外にも小穴を幾つか検出しています。小穴内では、埴輪や据付け痕跡などは確認できませんでしたが、穴の大きさは円筒埴輪本体の径に近似しているものが多くあります。後世に埴輪が抜き取られた結果、単なる小穴となって遺存していたものと推測できます。A・Bの据付け穴とこれらの小穴は、一連となって弧を描くような状況で分布していることが

ら、埴輪は古墳の裾に沿って円形に樹立されていたことがうかがえます。

以上のことを考慮し、古墳の形状を推測すると、六条野々宮古墳は、円墳、あるいは前方後円墳（今回検出した部分が後円部）の可能性が考えられます。ここでは、円墳と仮定した場合の復元を試みました。概ね径30m前後の円墳となり、奈良市内で発見されている円墳の中でも、かなり大規模なものになります。

立地条件もよく、丘陵の突端に位置しており、東は柏木町付近からJR奈良駅方面、南東の方向は大和郡山市域の一部を見渡せる展望の良い所でもあります。このようなことも含めて考えると、六条野々宮古墳の被葬者は、この地域を統括していた在地の有力者であったことを想起させられるのです。



墳丘復元図